

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立桐ヶ丘郷小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	平仮名の定着が不十分な児童が約2割程度いる。聞いて書くことや、誤字、脱字、特殊音節(促音、長音、拗音、拗長音)に誤りがある児童が多い。今までの生活経験や読書経験により、獲得している語彙の量にも個人差がある。また、何を聞かれているのか分からず、文章中から大切な言葉を抜き出すことが苦手な児童が多い。	学校と家庭で教科書の音読を繰り返す。また、読書の時間を設定し読書量を増やす。言葉のゲームやカルタなど楽しい活動を通して、平仮名の習得・語彙力を伸ばしていくよう工夫する。授業では発問を精選し、教材の核となる部分を捉えられるようにする。	実態に合わせたワークシートや学習プリントを用意する。きたコンやデジタル教科書などを活用し、画像や動画で理解を深める。学習に関連する図書を図書館で借り、興味関心の幅を広げられるようにする。
2年	「説明文を読み取ることや「文章を書く」ことの正答率が目標値よりも低く、定着が不十分である。特に最後の記述式の問題では、4分の1の児童が無回答(無記入)であり、書くこと自体に苦手意識をもち、主体的に取り組むのが難しい児童もいることが分かる。	文章の書き方を身に付けるために、モデルを示して指導していく。一人一人が理解しているか、個別に添削指導していくことも必要である。感想や日記を書く活動も定期的に行う。授業では、発問を精選し、教材の核となる部分を捉えられるようにする。	実態に合わせてワークシートや掲示物を活用する。型を用意して書くことに対する苦手意識を軽減し、根拠を明確にして書く力や文章を読み返す習慣を付けさせる。成果物を友達と読み合い、認め合う機会を豊富に設けることで、自信を付けさせていく。
3年	「漢字を書く」「文章を書く」ことに課題がある。漢字学習は、新出漢字をまとめて7文字程度、筆順や熟語を確認してドリルで練習をしていたが、定着に至っていない。書く活動では、考えを持つこと、文章を組み立てること、漢字を書くことなど様々ななつづきが見られた。	文字を書く機会を意図的に作り、実態に合った支援を行う。例えば、書く分量を調整したり、文章の構成が分かりやすい手本を用意したりする。また、文章を書くときのチェックシートを用いて、気を付けるべき点を明確にする。漢字学習は、既習の漢字を掲示するなど触れる機会を増やす。	国語の始めの時間を漢字練習の時間として、毎日練習できるようにする。定期的にテストを行い、モチベーションが上がるようになる。漢字の広場やイラストなどを見て、短い文章を書く活動を定期的に取り入れ、丁寧に見取っていく。
4年	「漢字を書く」「言葉の学習」についての誤答が多かった。毎時間の漢字の学習や漢字ドリルの宿題を行っているが、ただ書くだけの作業になり、漢字の定着に至っていない。	漢字ドリルの宿題も児童のモチベーションを上げて自主的に行えるようにする。また、漢字の学習では、漢字の成り立ちやその漢字が使われる語句を考えさせるなど、書くだけの作業にならないように指導する。	漢字や語句を使ったゲームを行い、楽しくて漢字や語句に触れる機会を増やす。また、授業の中で考えを話し合う機会を多くつくり、話し合うことで考えや語句が広がるようにする。
5年	「漢字の書き取り」について誤答が非常に多かった。日常的に、漢字ドリルなどの宿題、課題の提出を行なわせているが、鉛筆で文字を書くこと自体を面倒に思ったり、苦手に感じる児童が多い。また、文章を読み取る力も不十分であり、内容理解にも課題がある。	引き続き、漢字の習熟を図ることが重要である。単に漢字の宿題として出すだけではなく、漢字学習に慣れ親しむ工夫が必要と考える。自主的に進められる児童もそうだが、自分のペースで進められるようにし、自主性に重点を置く指導をする。	自主学習などで漢字学習を進められる工夫をし、宿題として、自分でペースを考えながら自分から学習に向き合えるようにする。また、読解のポイントを説明文学習を中心に行い、テスト形式に慣れ親しむ時間をつくる。
6年	文章を書くことについて定着していない。指導では、自分の考えをもつこと、それらを話して伝え合うことについては、学習機会を多くとれているようと思うが、書いて伝える活動はやや少ない可能性がある。きたコンの活用や児童が活動を選択する機会を設けたことで、紙に鉛筆で書く機会が減ってしまい、紙に書く活動そのものに苦手意識が高まってしまっていると考えられる。	書く活動に対する苦手意識を下げるために、例文の活用、書く視点の明確化、推敲のポイントの共有などを各单元で継続的に行っていく。また、書く機会を増やすために、文学的文章の感想や、意見文、紹介文などを書き交流機会を設ける。その際に、目的意識や相手意識を明確にすることで児童の意欲を高めていく。	国語の学習で書いたことを総合の時間等に実践したり、社会科の学習を通して自分達にできることをまとめたりするなど、他教科と横断的に書く活動を入れていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立桐ヶ丘郷小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	社会科で身に付けるべき事項が何なのか、教員間での共有がもっと必要であると課題が上がった。児童が自ら学び、この単元、資料でどのようなことを身に着けるのかしっかりと把握してから授業に取り組む必要がある。	ねらいを達成するために、どのような学習問題や学習計画が必要かしっかりと話し合い、教員間で共有する。児童が自ら学ぶ姿勢を獲得し、学習を進めていくために、資料や問い合わせの精選を行っていく。	社会科的見方考え方を身に付け、より自主的に児童が学習問題について考えられるように「問い合わせ」を精選する。児童が自発的に考えたくなるように導入を工夫し、学習計画をつくる。
4年	資料の読み取りや、基礎的な知識が身に付いていないため、資料から読み取れることを使い、そこから、めあてに向けてどのような実態があるか考えられるような指導をもっとしていく必要がある。	ねらいに沿った資料の取捨選択や、資料から読み取ったことを考え、周りと情報を共有し、ねらいを達成するための話し合い活動や、まとめをしっかりと行っていく。	資料を使ってどんなことがわかるか、新聞形式など、まとめの学習で資料を多く使った活動を取り入れるようにする。
5年	生活経験が全体的に低く、自分たちの、身の回りの社会の様子に関心が薄いことも日常の授業から感じているところである。身の回りの社会的事象と学習内容が関係していることを捉えさせていきたい。	日々の授業で、資料を見てどんなことがわかるのか、友達はどんなことを考えるのか、同じなのか、違うのかなど比べ、そこから考えられることに迫る時間をとるようにする。考えるベースになる知識をクイズ形式などで反復できるようにする。	きたコンを活用して自分で調べる活動を各单元で取り入れ、個に応じた学びの場を設定する。教師や仲間に調べたことを伝えることで、調べた内容を自分で理解できているのか確認するようにする。
6年	社会科の知識においては、学習内容が、地理や歴史、政治・国際のように変わっていく際に、継続的な復習を行っていないことが、基礎的・基本的な知識・技能の定着においての課題と考えられる。	各单元の終わりに、まとめを行う。その際に、「ことば」や重点を明確にし児童が調べ、まとめる時間を確保する。また、きたコンを活用し、クイズ形式で知識の復習を入れることで、基礎的・基本的な内容や言葉について振り返り、学習する機会を設ける。	ワークシートやきたコンのクイズ等を生かしながら、用語集や歴史人物辞典を作成するなど、目的意識を持って、発展的内容の学習を進める。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立桐ヶ丘郷小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	繰り上がりや繰り下がりのない足し算、引き算は定着してきたが、念頭操作はできる児童はまだ少なく、指やブロックなどの具体物を使っている児童が多い。計算スピードの個人差が大きい。また、文章題になると必要な数を読み取れず、何算か分からなかったり、答え方が分からなかったりすることが多い。	文章題に取り組むときは、分かっていることや聞いていることを丸で囲んだり、絵や図、具体物を操作したりすることで、理解できるようにしていく。問題文の読み上げや音読も多く取り入れる。また、授業の最初に計算タイムを設けて、素早く計算できる力をつけていく。	計算カードやきたコン、プリントなどを活用し、より多くの問題に取り組ませて習熟をはかる。個人によって問題を解く時間に差があるため、発展的なプリントも用意して、自分にあつた学習ができるようにする。
2年	区の平均は下回っていたが、目標値は全ての項目でやや上回っていた。基礎的な知識・技能は身に付いているが、個人差が大きい。正答率が低かったのは、文章題の立式や文章問題を作る問題であり、知識を活用する問題が苦手だと考えられる。	新しい単元に入るときには既習事項を復習する。具体物や生活に身近な課題を取り入れたり、文章題には分かっていることや聞いていることに線を引いたりすることで理解しやすくする。きたコンを活用して問題に繰り返し取り組めるようにして定着を図る。	少人数指導を生かし、理解度の低い児童には、繰り返し演習する機会を設けて、既習事項を確実に定着させ、理解度の高い児童には、文章題の立式や文章問題作りなど知識を活用する場面を設定し、力を伸ばしていきたい。
3年	図形的思考判断が求められる問題が苦手な児童が多いことから、図形的な問題の指導の際、実際にその図形や立体がどうなっているのか児童に理解させられていないのではないかという課題がある。	図形・立体を扱う時は、PCのシミュレーションだけでなく、実際に図形や立体に親しむことにより、図形的感覚を養えるようにする。また、普段から定規やコンパスなどの器具の扱いに親しみ、適切に使えるようにする。	身の回りにあるものは、どのような数学的理論の基に成り立っているのか興味を持てるような声掛けを日常的に行う。今までタブレットの多用で鉛筆を使って図を描くことが苦手な児童が多いので、描く活動も多く取り入れていく。
4年	四則演算や表とほうグラフの問題を苦手に感じている児童が多い。知識を活用する問題に慣れることが必要である。	社会科や総合的な学習の時間など、他教科においてもグラフを活用する場面を設けることで、問題に慣れる機会を多くする。	理解度の高いコースでは個々に解答するだけでなく、ペアやグループの中で解き方の説明をし合う場面を設ける。理解度が低いクラスでは実態に合わせた課題を用意し、達成感を少しでも味わえるようにする。
5年	中学年までの基礎・基本が身に付いていない児童が多い。特に計算力が弱く、文章問題の理解につながらない。思考力が求められる単元は問題解決に向けたプロセスがいくつもあるので、丁寧に指導していく必要がある。	単元の最初につながりがある学習の復習をする時間を確保する。基本をしっかりと押え、練習問題に取り組む時間を十分に確保する。	理解度が低いクラスでは実態に合わせた課題を用意し、達成感を少しでも味わえるようにする。理解度の高いクラスでは答えを出すまでのプロセスに着目させ、なぜそうなるのかを言葉や図、途中の式などを書き、仲間で共有できる場を設ける。
6年	全体として基礎基本の定着が課題である。「計算」においては中学校での学習内容に深く関わり、特にわり算は、継続的な復習による改善が必要である。また、図形やデータの活用は、各種学習活動により、継続的に触れ、技能を高めていく必要がある。	児童により学力差が大きいため、少人数指導のよさを活かし、進度がゆっくりなクラスでは、授業の初めに基本的な計算の復習を継続的に進めていく。データの活用や、図形においては、きたコンを活用することで、視覚的な補助をしたり、計算やグラフ作成の補助をしたりしながら、学習内容を絞って、重点を効果的に学べるようにする。	東京ベーシックドリルや、ラインズeライブラリを活用し、個々の学習の進度や、理解に応じた学習を選べるようにしさらなる学習内容の定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立桐ヶ丘郷小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	観察や実験を通して学んだことは理解度や定着率が高かつた。反対に、教科書や画像を見せて解説しただけでは、一部の児童の理解に及んでいなかった。	体験的な学習を意識し、授業を行う。児童の経験も知識理解へと繋がるため、経験談を引き出す声掛けを意識する。また、昆虫の体の作りなどは、タブレットを用いて、部分ごとに色分けさせたり、昆虫の種類ごとに分類させたりなど、児童が意欲的に理解を深められる工夫をしていく。	テストを行う前に、タブレットやたしかめテストなどで正しい理解をしているか確認する機会を作る。既習の学習内容を生かしたおもちゃ作りを行い、楽しみながら振り返りができるようにする。
4年	実験や観察には意欲的に取り組んでいるが、実験結果をもとに考察し、考えを広げることができていない児童がいる。	問題把握→予想→実験・観察→結果→考察という流れを徹底していく。実験の結果から、全員が予想し、実験を通じた考察ができるように自分で考える時間を設ける。実験器具の使い方を理解できるように、単元ごとに使い方を再度確認していく。	写真や動画などの資料や緑のカーテンの活動を活用し、自然現象への興味関心を高めるようにする。また、実験・観察は何のために行うのか確認しながら進めていく必要がある。
5年	資料を読み取ったり、実験から考えて結論に結びつけたりする力が非常に弱いと考えられる。また、思考のベースとなる知識も定着しにくい傾向がある。知識を定着させる手立てが必要である。	身の回りの事象が理科の学習にどう関係しているか気付いていない児童が多いので、結びつけて考えられるようにする。実験・観察の結果を踏まえた考察のノート指導を丁寧に行う。知識の定着はクイズ形式を取り入れ定期的に行う。	プリント学習などで、理科的語彙が身に付くような反復学習を行っていく。単元の終わりにその単元の学習をふり返られるようなまとめをする。その際、おさえるべき語彙を伝えたり、実態に応じて発展的な内容を助言したりする。
6年	単元が変わる毎に、継続的な復習を行っていないことが、基礎的・基本的な知識・技能の定着においての課題と考えられる。また、実験器具の正しい使い方を都度確認する必要があると考えられる。	単元のはじめに、事象提示をする際に、前時までの内容の振り返りや、既習事項との関連付けを行うことで、復習を行う。また、きたコンのクイズや、eライブラリを活用し、知識の定着を図る。実験の際には、実験のルール、器具の使い方を毎回確認し、なぜそのように扱うのかという、意図もあわせて指導することで、より定着を図る。	単元の定着を図るプリントやきたコンを活用した復習問題を用意し、継続的に取り組めるようにする。また、動画教材を共有することで、実験や事象のイメージをもちやすいうようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	外国語に慣れ親しんでいるので、話す力、聞く力もつけていくようにする。	児童が楽しんで外国語に慣れ親しめるような、相手とのやりとりのあるゲームを取り入れるようにする。	コミュニケーションに必要な文の型を示し、自分の考えや意に合った単語を入れられるようにする。必要に応じてきたコンを利用して、語彙を調べられるようにする。
6年	コミュニケーション活動については、楽しみながら英語に慣れ親しんでいる。一方で、身近な言葉は身に付いているが英語を完成させる力が不足している。	児童が楽しんで書く力を付けられるように、bingo形式やゲーム感覚、ロールプレイで英文に親しむ活動を取り入れる。	自分の考えや思いを伝えられるような単語をきたコンを利用して調べ、語彙力を増やしていくようにする。文章を書く機会も今後は増やしていく。